



ここは森の保育園。ちょうどおやつ時間です。  
「わーい。おやつだ、おやつだあ」  
さあみんなで  
「いただきまーす」



「ごちそうさまでした」  
食べ終わったら、どうするかな？  
そうだね、みんなで、おかたづけ。



その頃、山菜取りのおじさん達が、保育園の近くで、お茶を飲んだりタバコを吸ったりしながら、何やら楽しそうにお話しています。  
「さあ、もうひとまわり探してみようかな」



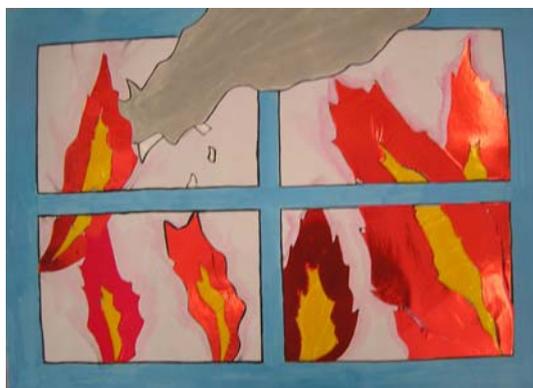
あれあれ？  
おじさん、ゴミを残して行かないで！  
すいがらを投げ捨てて行かないで！



さあ、大変！  
すいがらに残っていた火が、ゴミ袋に移って、どんどん  
燃え広がっていきます。  
保育園が危ない！



「ねこちゃん、見つけた」  
みんなが、お遊戯室で、かくれんぼしています。  
犬君のお鼻がひくひくしています。  
パチパチ・・・  
「なんだか変な音がしているわ」  
うさぎちゃんのお耳がぴーんとたっています。  
「あっ火事だ！」



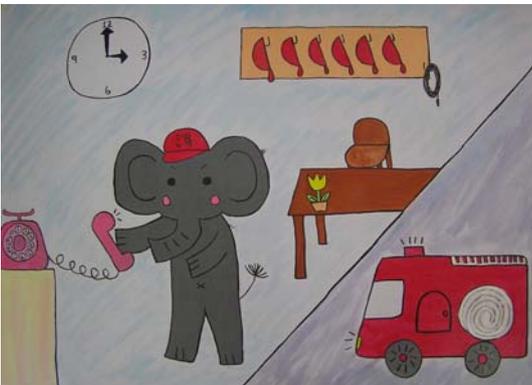
白い煙と赤い炎が、窓から見える森の奥から、どんどん  
こちらに近づいてきます。



「きりん先生、すぐに119番に知らせてください。  
みなさんは、慌てないで、先生の言うとおりに避難しま  
しょう」  
ひつじ先生が大きな声で言いました。  
「まずは、ここから逃げること。  
さあ、順番に、向こうの出口から出ましょう」



保育園のまわりは、もう、煙でおおわれています。  
「みなさん、ハンカチを口にあててください。  
身体を低くして、煙を吸わないように」  
「みんな、あわてないで、順番に出ましょう」  
ひつじ先生の声が、列の後ろから聞こえてきます。



「はい、こちら消防署です。」  
「火事ですか？救急ですか？」  
「火事です」  
「場所はどこですか？」  
「森の保育園です」  
「すぐ行きます」  
ウーーーー



「みなさあん、全員保育園から出ましたね」  
さあ、できるだけ遠くに逃げましょう」  
「先生、僕の作ったロボットが燃えちゃうよ」  
「先生、私のお気に入りの絵本がなくなってしまうわ」  
犬君も猫ちゃんもかわいそう。  
「火は、あっという間に燃え広がって、みんなの命や大好  
きなものを全部燃やしてしまう恐ろしい力を持っているの  
です」  
ひつじ先生は、真剣な顔で言いました。



ウーーーーー  
やっと、消防車が到着しました。  
さあ、消火活動です。  
ゾウの消防士さんたちが一生懸命に火を消しています。



ようやく火が消えました。  
焼け焦げてしまった保育園を見て、みんな悲しくなりました。



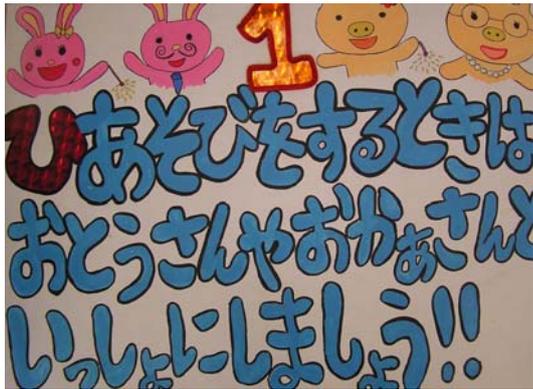
火事に驚いて、山菜取りのおじさんたちが、慌てて戻ってきました。  
「ゴミのおきざりがなかったら、火が大きくなることはなかったかもしれないですよ」  
「火元は、タバコのポイ捨て。これさえなかったら火事にはならないんですよ」  
ゾウの消防士さんは、おじさんたちに、きびしく注意しました。



おじさんたちもびっくり。  
「もう、絶対に、タバコのポイすてはしません」  
「ゴミを残したりしません」  
おじさんたちは、保育園のみんなや消防士さんたちに何度も謝りました。



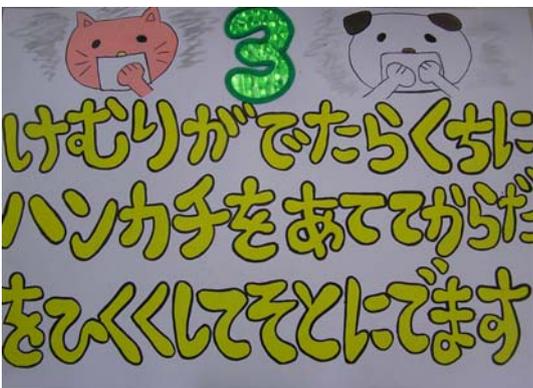
さあ、保育園のみなさんもお約束しましょう。



1. 火を使うときは、お父さんやお母さんと一緒に しましょう。



2. 火事になったら、おさない・かけない・しゃべらない・ の、おかしで覚えましょう。



3. 煙が出たら、口にハンカチをあてて、身体を低くして 外に出ます。

みなさんも、この3つを覚えましょう。